

編 集 後 記

初夏を迎えた北海道は最近ようやく気温が上昇し、当別も穏やかで過ごしやすい時期を迎えております。平成30年度も前半を終え、皆様の臨床・教育・研究活動もますますの躍進を遂げて、多忙な日々をお過ごしのこととお察しいたします。本号におきましても、北海道医療大学歯学雑誌に論文等の投稿並びにお忙しい中、論文の査読をお引き受けいただきました先生方のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

さて、本号では原著論文2編、総説1編、ミニレビュー1編、症例報告2編及び最近のトピックス2編の投稿をいただきました。巻頭には、ユングシュテリング病院院長のHell先生並びに顎顔面口腔外科学分野の永易裕樹先生による顔面部の外科的切除によって生じる軟組織欠損に対する再建手術法において、両先生による多数の症例を提供していただいております。本論文は本学歯学部と姉妹校締結している海外施設からの最初の投稿であり、臨床・教育・研究活動に携わる歯学部の先生方の国際的な活躍を強く感じる事が出来ました。今後、国際的な舞台を目指した若手の先生方が、さらなる発展を導いてくれることが期待されます。原著論文は組織学分野の建部廣明先生及び生体材料工学分野のGazi先生からの報告です。建部先生からは歯槽骨における副甲状腺ホルモンの骨形成促進作用とメカニカルストレスとの関係について、Gazi先生からは留学生の健康状態と生活習慣との関連性についてエレガントな研究結果が示されております。また、歯科矯正学分野の山崎敦永先生及び鳥谷奈保子先生には、最新の矯正治療の症例を紹介していただいております。さらに、小児歯科学分野の袁輪映里佳先生及び伊東歯科口腔病院の廣瀬知二先生からは、歯科臨床に密接に関連する最近のトピックスを提供していただいております。いずれも大変興味深い内容ですので、是非ご一読ください。

最近、入学者数の減少等で歯学部の未来を憂う言葉を耳にする機会が多いように感じます。このような潮流の中、歯学の発展を志す人々の気概は少しも薄れていないことをアピールするためにも、本学歯学雑誌のさらなる充実に努めて参りますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようどうかよろしく願いいたします。(石井 記)

次号（第37巻、第2号）の発行は平成30年12月31日です。

投稿原稿募集の締め切りは平成30年9月30日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2018年第37巻、第1号の巻末をご参照ください。